

がんと栄養

第22号

発行：西神戸医療センターNST
がんと栄養チーム

2025年8月



今回のテーマは「**化学療法中の便通異常（便秘）**」です。

化学療法中はお薬の影響を受けて便秘になりやすいです。便秘治療の基本は、排便回数2回～1回/日を目標に非刺激性下剤を毎日適量使用する事です。

そもそも、非刺激性下剤って何？

便は消化された食べ物のカスを原料に大腸で作られて、大腸の蠕動運動によって排泄されます。消化された食べ物のカスに作用する下剤は非刺激性下剤、大腸を直接刺激して蠕動運動を促進する下剤は刺激性下剤に分類されます。

便の水分量UP



1. マグミット錠（酸化マグネシウム）

効き目が穏やかで安価なため、最も使用される頻度が高い下剤です。胃の中で胃酸と反応して塩化マグネシウムになったあと、腸の中でさらに変化して腸管内の浸透圧を上げます。浸透圧が上がることで腸管内に水分が移動して便を軟らかく保ちます。内服して8～10時間程度で効果が出てきます。

高マグネシウム血症があらわれることがあるので、高齢の方や腎機能の悪い方、長期投与する場合には**定期的に血清マグネシウム濃度を測定するなどの注意が必要**です。また、制酸作用、吸着作用等により他の薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがあるため他剤との併用（相互作用）に注意が必要です。

2. モビコール配合内用剤（マクロゴール4000、ポリエチレングリコール4000）

粉末を水で溶解して服用する下剤です。味などが気になって服用しにくい場合は、水以外の飲料（冷たい飲料やりんごジュースなど）に溶かして服用することも可能です。内服した際の水分を抱えたまま腸管へ到達し、腸の中の水分が増える事で便が軟らかくなり便の量も増えます。便の量が増えるため、大腸の蠕動運動が活発になり排便が促されます。

2歳以上の小児から使用でき、腎機能の悪い方でも使いやすい薬剤です。お腹が痛くなりやすく、クセになりにくい下剤とされています。

3. アミティーザカプセル（ルビプロストン）

1日2回食後に服用します。小腸のクロライドチャンネルに作用し、腸管内への水分分泌を促進して便を軟らかくし、腸管内への輸送を高めて排便を促進します。効果が出るまで約1日かかります。開始時は水様の液が出るため下痢と間違えやすいですが、しばらくすると治まってきます。

妊娠中の方は使用できません。副作用の吐き気を避けるため、食後に服用となっています。吐き気は若い方で出やすいとされていますが、化学療法で吐き気が出やすい方も少量から開始し様子をみながら増量することが勧められます。

4. リンゼス錠 (リナクロチド)

1日1回**食前**に服用します。腸管表面に存在するグアニル酸シクラーゼ C(GC-C) 受容体に作用し、cGMP を増加させることで腸管分泌促進作用、小腸輸送能促進作用を示します。また、腹痛、腹部不快感を穏やかにする大腸痛覚過敏改善作用も示します。食後に内服すると下痢が起こりやすくなるため、服用は食前となっています。開始時は腸管からの分泌液が出て下痢と間違えやすいですが、しばらくすると治まってきます。

5. グーフィス錠 (エロピキシバット)

1日1回、**食前**に服用します。回腸末端部の胆汁酸トランスポーター (IBAT) を阻害し、胆汁酸の再吸収を抑制することで大腸へ流入する胆汁酸の量を増加させます。胆汁酸は、大腸内に水分を分泌させる作用と、蠕動運動を促進する作用があるため排便しやすくなり、便意の改善も期待できます。

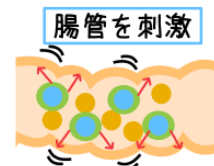
胆汁酸は肝臓から分泌されるため、重い肝障害のある方は使用できません。蠕動運動を促進させる作用の影響で服用開始1か月程度は腹痛がでやすい薬剤ですが、継続服用により便秘が改善すると腹痛も治まっていくとされています。

食後に服用すると吸収が3倍になり副作用も出やすくなります。また、食事で胆汁酸が分泌される前に服用するのが良いため食前服用となっています。

6. スインプロイク錠 (ナルデメジン)

オピオイド鎮痛薬 (麻薬) によって起こる便秘に使用します。オピオイド受容体に結合してオピオイド鎮痛薬に拮抗することにより、オピオイド誘発性便秘症を改善します。拮抗するのは消化管のオピオイド受容体のみのため、オピオイド鎮痛薬の鎮痛効果を邪魔することはありません。オピオイドを使用している間は定期的に内服しましょう。

刺激性下剤には何があるの？



1. センノシド錠 (センノシドA・B)

大腸細菌叢由来の腸内細菌により生成された活性体 (レインアンスロン) が大腸粘膜を直接刺激して蠕動運動を亢進します。内服して8~10時間程度で効果が出ます。連用によって効果が減弱し、薬剤に頼りがちになることがあるので長期連用は避けた方がよく、どうしても出ない場合の頓用での使用をお勧めしています。

2. ピコスルファート錠・内用液 (ピコスルファートナトリウム)

大腸粘膜を刺激し、腸の運動を促します。内服して7~12時間で効果が出ます。錠剤と水薬があり、水薬は数滴から数十滴を水に溶かして内服するため、微調節が可能です。

その他、外用剤としてグリセリン浣腸液やレシカルボン坐剤もあります。

食物繊維の多い食事やこまめな水分摂取を心がけ、無理のない範囲で軽い運動を取り入れつつ、必要時には下剤も適量使用しながら排便コントロールをしていきましょう。



(担当：薬剤師 油屋)

バックナンバーは
こちらから！

